

ふれあいトーク記録書（要約）（ 商工会との意見交換会 ）

開催日時： 令和8年2月10日（火） 午前9時30分～午前10時50分

場 所： 岩倉市商工会館3階会議室

参加者： 商工会理事：13人

議員：須藤、谷平、梅村、片岡、鬼頭、水野、堀江、大野、日比野、井上、伊藤、関戸、塚崎、木村、榎谷

次 第： 1. 開会挨拶 市議会議長 須藤智子

2. 意見交換会

3. 閉会挨拶 市議会副議長 谷平敬子

記録者： 伊藤

項目	参加者の意見・質問	議会の応答
		・ 会派代表者による都市計画マスタープランについての意見表明（別紙参照）
【テーマ1：若手事業者の事業所確保について】	<ul style="list-style-type: none">・ スタートアップの場所不足： 岩倉市内で手頃な工場や事業所を探すのが非常に困難。・ 市外への流出： 岩倉在住で事業拡大や創業を考えても、場所が見つからず一宮市など他市へ流出する事例が多発している（製造業、不動産、マッサージ業など）。・ 要望： 工業ゾーン・商業ゾーンの拡充や、若手が商売できる場所を見つけやすくする施策、新設の推進をお願いしたい。	・ 若手スタートアップが市内に場所がなく困っている現状を受け止め、議会としてどのように進めるか検討したい。

<p>【テーマ 2：人口減少対策と街の賑わいについて】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口停滞の疑問：名古屋に近く便利で環境も良いのに、なぜ人口が増えない（微減傾向）のか。 ・質問：人を増やして街を賑わわせるために、どのような考えを持っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型マンションの建設：駅周辺が駐車場ばかり。大型マンションを建設すれば一気に人口は増える。現在は外国籍住民の増加で人口を維持している状態。 ・スポーツ誘致：中日ドラゴンズ 2 軍の誘致やパブリックビューイングなど、スポーツで人を惹きつけ、市民に夢を持ってもらうことが重要 ・シビックプライドの醸成：ハード面だけでなく「岩倉市が好きだ」という地域愛（シビックプライド）を育てるソフト事業が必要。 ・コミュニティ強化：地域役員のなり手不足などコミュニティの弱体化を防ぐため、市に政策提言していきたい。 ・空き家対策の強化：既存の空き家取り壊し補助金があまり利用されていない。 ・循環サイクルの構築：「取り壊して新築する」「売却する」場合に補助金を上乗せするなど、土地が利活用される仕組みを作り、新たな居住者を呼び込む。固定資産税増収分を市民へ還元するサイクルを作る ・関係人口とアクセス向上：定住人口だけでなく、岩倉に関わる「関係人口」を増やす。 ・近隣市町との連携：国道 22 号・41 号、名神・名二環に囲まれたポテンシャルを活かし、小牧・北名古屋・一宮などと連携して栄えていくべき。 ・スマート IC 推進：人・モノ・情報のアクセス向上のため、一宮 PA 付近へのスマートインターチェンジ設置を推進すべき。
---------------------------------	--	---

<p>【テーマ3：駅周辺および市街化区域の拡大について】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅東開発の遅れ：下水道整備が未達で、マンション建設を待っている業者が多数いる。桜通線も未完成。 ・ 他駅周辺の開発提案：岩倉駅前の整備だけでなく、大山寺駅・石仏駅周辺の住宅開発・区域拡大も検討しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石仏駅周辺の現状：ドラッグストア等の出店で賑わっており、五条川小学校区の児童数は10年前より増えている。 ・ 地域のエネルギー活用：地主が土地活用に悩んでいるケースもあるが、若者のエネルギーやコミュニティスクールでの高齢者の活躍など、地域の人的パワーをうまく結びつけたい。 ・ 市街化調整区域の課題：大山寺・石仏周辺は市街化調整区域のため住宅建設が難しい。市街化区域への編入を調整中だが、地権者の同意が得にくい現状がある。 ・ 方針：農地内の住宅も増えており、市街化区域を拡大して若い子育て世代が住めるようにすることが人口増に一番良いと考える。同時に就労場所や公園の確保も課題。
<p>【テーマ4：観光振興とアイデア】</p> <p>【テーマ5：教育施設と将来の財政・街づくり】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議形式の提案：対面形式は対立構造に見えるため、座席配置を工夫し、もっと気軽にキャッチボールができる場にしたい。 ・ 山車の常設展示：まつり以外でも見られるようにする。 ・ 五条川の鯉：餌やりスポットとして観光資源化する。 ・ 昇龍道プロジェクト：スマートICから東海北陸道へのアクセスを「鯉が龍になる昇龍道」の出発地としてPRする。 ・ 協力体制：行政・議会・商工会が互いに協力し合う関係を築きたい。 ・ 議会への要望：マスタープラン実現には議会の力が不可欠。地権者や周辺住民との調整など、積極的に議論してほしい。 ・ 学校統廃合の検討：人口減少・児童数減少が確実な中で、小学校5校・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校により特徴的な教育をやっている。現時点では統廃合は難しい。 ・ 県の財政状況：岩倉総合高校の移転などは、アジアパラ

	<p>中学校 2 校の体制維持は財政的に持続可能か。</p> <ul style="list-style-type: none">・質問：学校数を維持することが目的になっていないか。教育の質や将来の財政負担を見据え、長期的な展望でどう考えているか。	<p>リンピック等による県の財政難もあり優先順位が難しい。</p> <ul style="list-style-type: none">・長期ビジョン：行政計画は 10 年だが、議員は 50 年、100 年先を語るべき。メタバースや AI 活用など、物理的な箱モノにこだわらない発想も必要。・広域連携・合併：行政規模としては数十万人が適正という説もある。近隣市町と医療やインフラを補完し合う協力、あるいは合併も含め、岩倉市単体にこだわらない自由な発想が必要ではないか。
--	--	---

【今後のまちづくり】について

岩倉市都市計画マスタープランについて、主だったところをかいつまんでになりますが、創政会の考えを述べさせていただきます。

この計画は残り5年、2030年までの計画となっています。

p 3, 今回の見直しで、都市形成ゾーンに地域振興拡大検討ゾーンが加わりました。p 4で紫色の点線円で囲った箇所です。岩倉中学校の南側、名草線を西に超え、萩原多気線の北側や岩倉総合高校の付近になるでしょうか、これは、名神高速道路における尾張一宮PAスマートインターチェンジ（仮称）の整備効果を活かし、地域振興の拡大を検討するゾーンになります。

昨年12月にこのスマートインターチェンジの国の事業化が決定しました。創政会としては、引き続き、このインターチェンジの完成と周辺地域における振興拡大を狙った取り組みは、積極的に支援したいと考えております。

できることなら、インターチェンジの名称に「岩倉」が入ると、シティプロモーションにもなり、関係人口創出などに活かせるなどなお一層よいと考えられるのですが、パーキングエリアの名称を変えることは、高速道路側のシステム改修等も必要になり、費用対効果をみながら慎重に判断したいと思っています。

この事業は、一宮、岩倉の両市で進めることになりますが、岩倉市への影響、効果としては、地域振興拡大検討ゾーン p 4における企業の進出から、税収増と働く場所ができることにつながり、岩倉市の将来の発展、持続的な発展に寄与するものと考えています。

また、インターチェンジと合わせた物流拠点の整備では、経済活動の効率よくすることのみならず、災害時の防災拠点、支援物資拠点として機能し、市民の安心安全な暮らしにつながることも考えています。

さらには、交通の利便性が特徴である岩倉市にとって、鉄道とともに、車での移動において更なる利便性が図られ、市の特徴が際立ち、暮らしやすく、定住政策にもなるのではないかと考えているところです。

次に、

p 4, 住居系拡大検討ゾーンについて、今回の見直しで、岩倉市の北部から、東町のあたりにエリアが変更となりましたが、岩倉駅の利用が想定される立地であり、住宅地として適していると思います。また東小学校の活用が見込めるので、このエリアへの変更には、賛同しています。

次に、

P 5 の仮称にぎわい広場の整備方針の記述が入っていますが、広場の整備基本構想をもとに、都市計画道路と一体となったまちづくりを進めるということで、岩倉市にとって必要な整備と考えております。構想については、五条川の東側まで活用するような絵もかかれておりますが、こうしたものが実現できればよいのですが、まずは、駅から五条川までの空間を整備し、人が「集まるような、くつろげる、楽しめるような」広場づくりを目指してもよいのではないかと考えています。

ある時は、盆踊りなど市のイベントができるくらいのスペースが取れる、広場になると良いと思ったこともあります。優先すべきは、日常的に、人が集い、人と人とのつながりができるような交流空間となることと思います。また、桜祭り会場として支障がないこと、町内のイベント開催のことも考慮しながら進めることを必要ではないかと考えています。現段階では、桜通線の街路整備が完了してからの着手のようで、もう少し様子をうかがいたいと思います。

次に

P5 の一番下で、希望の家跡地利用の記述があり、都市公園等の整備を推進するとありますが、うまく売却ができなかったことから、より一層市民の意見を聴いて、(既にそういった場を設けた検討に入っていますが、) 土地活用してもらいたいところです。市民の意向と合致するならば、市内に、火を思い切って使える施設が無いとため、キャンプやバーベキューができる公園や市民農園との併設になるようなことができると良いのではないかと考えています。

さらには、五条川と一体となった、アウトドアのできる空間になると一層良いのではないかとイメージをふくらませているところです。

例) 美濃加茂にある施設

創政会から最後ですが、

P 6 の二つ目の□ですが、自転車活用推進計画ができました。全国的につくられてきている計画ではありますが、市域面積の小さい岩倉市には、マッチした計画であると感じています。ただ、既存の道路や歩道が狭すぎて、道路改良には難儀することもあると思います。自転車活用の推進は、環境面や健康面にもよい影響を及ぼすことから創政会でも推進していきたいと考えています。これまでに市内のどこの場所が、自転車の交通量が多いのかなど、調査をしていますので、通学ルートが中心になっていたと思いますが、自転車が安全に快適に通行できるよう、また、自転車を楽しめるような視点で整備を後押しをしたいと考えております。

*時間があれば、下水道整備、水害対策について述べる

梶谷規子

1. 中小企業・小規模企業振興計画の今後について

現在の「中小企業・小規模企業振興計画」は、令和4年から8年度までの5年計画となっている。今年度で計画期間が終了することから、5年間の経過、到達など検証しながら、次期計画をどのように策定していくのか、議論しながら検討を進めていく必要があると考えている。

2. スマートインターチェンジ事業について

市民にとって必要な事業なのかという疑問もあり、市の財政負担がどの程度になるのか不透明であること、一宮市との費用負担が折半であることへの疑問など、賛成の立場でなかったが、国の事業化決定を受け、今後は車両増加による騒音・振動・排気ガスなどの環境負荷や交通安全対策の徹底など具体的な影響への対応が重要であると認識している。

3. 八剣町の産業ゾーンについて

地域住民から多くの不安の声が寄せられており、要望も出されている。

- ① 市道豊田岩倉線から右折のR155線の慢性的な交通渋滞がある中で、都市計画道路一宮春日井線の未整備のまま開発が先行することへの懸念が大きい。
- ② 造成工事、建設工事、流通施設の立地による騒音・振動・排気ガス等の環境悪化。
- ③ 住宅地前の道路への大型車両の流入抑制。
- ④ 住宅・医療施設・介護施設への影響回避のため、緑地帯などの緩衝地帯の整備、単なる植樹だけでなくウォーキング空間など、市民が利用できる機能を持たせた質の高い緩衝地帯の整備の要望。

4. 流通倉庫中心の開発でなく福祉・農業・商業が連携したまちづくりを

学校給食の材料に地産地消を推進しているが、岩倉で採れた農産物を介護施設や福祉施設にも広げたり、喫茶店などのお店に置いてもらう、農業・商業・福祉が連携したまちづくりを展開できないか模索していきたい。

5・カーボンニュートラルと中小事業者支援

カーボンゼロの推進に当たり大企業に比べて、中小・小規模事業所は資金面での負担が大きいため、補助金制度の充実・支援策の拡充を図り、事業所と市民が一体となって取り組める環境整備が求められると考える。

商工会の皆さま、本日はお時間をいただき、誠にありがとうございます。
本日は、岩倉市の都市計画マスタープランの中間見直しを踏まえ、今後のまちづくりについて、公明党としての視点も交えながら、考えを述べさせていただきます。

まず、公明党はこれまでも「現場第一主義」を掲げ、市民の皆さまの小さな声に耳を傾けながら、誰も置き去りにしないまちづくりを進めてまいりました。
今回の中間見直しは、人口減少や高齢化、地域経済の変化に対応し、岩倉市の将来像を改めて描き直す重要な機会であると考えています。

岩倉市は市域が小さく、コンパクトであるという特性を持っています。この強みを活かし、「徒歩や自転車で暮らせる超コンパクトシティ」を実現していくことが、持続可能なまちづくりにつながると考えています。また、昨年には、岩倉市自転車活用推進を策定し、自転車利用者に配慮した自転車通行空間を効率的、効果的に整備するための自転車ネットワークの形成や駅や商業施設などを利用する際に駐輪しやすい環境整備を行い、自転車の利用者にやさしいまちづくりを進めています。

次に、今回の見直しで大きなポイントとなったのが、名神高速道路・尾張一宮パーキングエリアへのスマートインターチェンジ設置の事業化が決定したことです。
これにより、岩倉市の広域交通アクセスは大きく向上し、物流や商業、産業の新たな展開が期待されます。市としても、スマートICの効果を市内経済に波及させるため、岩倉総合高校周辺や名草線西側の大地町に「地域振興拡大検討ゾーン」が新たに設定されました。公明党としても、この新たな可能性をビジネスチャンスととらえ、地域の活力につながるよう、事業者の皆さまの声を丁寧に伺いながら、行政と商工会が連携して取り組むべきだと考えています。

一方で、岩倉市の商工業を取り巻く課題も明確です。
駅周辺のにぎわい創出、回遊性の向上、小規模事業者の事業承継、人材確保、デジタル化の遅れ、そして空き店舗の増加など、商工会の皆さまが日々向き合っておられる課題は、都市計画と密接に関わっています。これらの課題については、桜通線の開通を進めることで駅周辺の賑わいも期待できると考えています。周辺を整備することで、新規事業者の参入が期待できますし、商店街の再生にもつながります。また、地域の事業者を支えることは「地域の雇用を守ること」であり、「地域の暮らしを守ること」だと考えています。課題解決に向けて先進地を参考にしながら行政に提案していきたいと考えています。

次に、地域交通の改善についても触れたいと思います。
高齢者や子育て世帯の移動手段の確保は、商業利用の増加にも直結する重要なテーマです。昨年、総務産業建設常任委員会で自動運転バスの先進地である、茨城県

境町を視察してまいりました。自動運転バスの運行により、高齢者の移動手段の改善や地域コミュニティの活性化などが実際の効果として現れていると感じました。しかしながら、導入には多額の予算が必要であり、市として慎重な姿勢が想定されます。公明党としては、国・県の補助制度の活用や実証実験の実施など、財政負担を抑えながら段階的に検討を進めるべきだと考えています。「安全・安心の移動を確保すること」は、公明党が大切にしてきた政策の柱でもあります。

最後に、商工会との連携強化について申し上げます。事業者の声を都市計画に反映するためにも、商工会との定期的な意見交換の場として、本日実施している「ふれあいトーク」通して、創業支援、デジタル化支援、事業承継支援など、商工会の取り組みを、議会としてもしっかり後押ししていきたいと考えています。

スマートICの整備や地域交通の改善といった新たな動きを、市内事業者の皆さまの商機につなげるためにも、行政と商工会が一体となって取り組むことが重要です。本日の意見交換を通じて、皆さまのご意見を伺いながら、誰もが安心して暮らせる、持続可能な岩倉市の実現に向けて、共に歩んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。